

式辞

今年は例年になく寒い日が続きました。登下校時や帰舎・帰省のたび、マスク越しに吸い込む空気の冷たさ、吐く息の白さを感じるが多かったと思います。しかし、日差しには春の陽気が少しずつ感じられるようになりました。春がもうそこまで来ています。校内の梅の蕾に比べると目立ってはいませんが、桜の芽も少しずつふくらみ始めています。

春の訪れが感じられる今日のおよき日、PTA会長様、同窓会長様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立播磨特別支援学校、第五十三回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました43名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは本校のすべての教育課程を無事修了し、本日めでたく卒業の日を迎えることができました。三年間よく頑張りました。本校を代表して心から祝福の意を表します。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

さきほど、卒業証書を受け取るお子様のお姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと存じます。心よりお喜び申し上げますとともに、高い所からではございますが、この場をお借りいたしまして、これまで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に謹んでお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、皆さんが入学した三年前の四月、「平成」から「令和」への改元が発表されました。五月に施行され、皆さんは「令和」初の本校入学生となりました。

ビューティフルハーモニー
「美しい調和」を意味する新時代の幕開けと翌年に開催予定の「東京2020オリンピック・パラリンピック」（2021に延期）で、世の中が新時代への期待でいっぱい、皆さんも夢や希望に胸をふくらませ本校に入学したことと思います。

順調に学校生活を送り、実習など体験学習をはじめ体育祭や文化祭などの行事も経験して、令和元年度の修了式が近づいたころ、世界中を震撼させたのが新型コロナ感染拡大（パンデミック）の脅威でした。学校は緊急事態宣言のもと臨時休校となりました。

感染拡大防止のために学校が長期休校になるという前代未聞の経験をする事になり、これにより皆さんは「命を守る行動」に努め、七月学校再開の日まで忍耐強く在宅学習を重ねることになりました。二年生になったという節目があいまいな感じのまま、友人や先生方とも会えずに時が流れ、皆さんにとっては大きな試練だったと思います。また、保護者の皆様におかれましてもご心労をおかけする毎日であったことと思います。

計画されていた学校行事や体験学習などの多くが変更や中止となり、思い描いていた学校生活とはかけ離れたものになってしまったのではないかと最も気がかりでした。

ところが、七月全校再開の日、笑顔いっぱいに元気よく挨拶を交わし登校してきた皆さんの姿を見て感動しました。あの時、学校に響く皆さんの声を忘れることができません。共に支えあい、助けあい、学びあい、わかりあえる学校が戻ってきたことへの喜びであふれました。この年、皆さんとともに「当たり前」であることのありがたさと大切さに気づかされました。

そして、令和三年四月、皆さんは三年生になりました。

平常の学校に戻りつつあるものの、常にコロナ感染リスクと隣り合わせには変わりありません。三年生においても、体育大会は縮小開催、修学旅行も広島へ一日の校外学習に変更するなど、行動自粛や制限・制約が伴う一年になりました。皆さんの健康を考えた判断で、やむをえないこととはいえ、卒業生の皆さんにはつらい思いをさせて申し訳ない気持ちでいっぱいです。

このようにコロナ禍で思い通りにならないことが多くあったにもかかわらず、皆さんは常に笑顔を忘れず、三年生として進路実現をめざし努力を重ね、本日、卒業の日を迎えました。

今日を分岐点とし、明日からそれぞれの道を歩んで行くこととなります。

皆さんは、グローバル社会が進展し、ICTによる高度情報化社会の加速と変化の激しい時代を生きていきます。また、一昨年来、新型コロナウイルスの出現により世界中の人々の生活や経済活動などに大きな影響が及ぶ社会であることも実感しました。「自然の猛威、驚異」も意識して、生きていかなければなりません。

この予測が難しく変化の激しい時代ですが、新型コロナ感染に負けることなく、自分を見つめ、自分を見失うことなく、「進路、自分の道を切り拓いた！」ことを大きな自信とし、そして、本校三年間の学びを生かし、さらには校訓を通して培った三つの心、

「自立（じりつ）」＝なりたい自分は何かを考え社会自立をめざしたゆるぎない心、

「友愛（ゆうあい）」＝人との出会いに感謝し、人への思いやりを忘れない心

「創造（そうぞう）」＝新たなこと未知なるものに挑戦し切り拓こうとする心

これらを忘れず、心の支え、心のバネとして、「自信と気概」に満ちあふれ、「堂々」と第一歩を踏み出して行ってください。

結びにあたり、三年間多くの試練を乗り越え、本校を旅立つ皆さんに、小説『宮本武蔵』の作家「吉川英治」の名言をお贈りしたいと思います。

「よし今度も立派に乗り越えて見せるぞ、
朝の来ない夜はないのだから…。」
(復唱いたします。)

ご来賓の皆様、保護者の皆様に重ねてお礼を申し上げますとともに、卒業生の皆さんの将来に幸多かれと願い、式辞といたします。

令和四年二月二十六日

兵庫県立播磨特別支援学校
校長 下雅意 一之